

町長の一言



秋の行事あれこれ

11月は、各地でまつり関係の行事が行われました。

10月は神無月ですが、11月の霜月に入ると鎮守様の例祭も行われ、特に農村部においては、秋の収穫の喜び、感謝の祭りが長く続いてきました。しかし現在は形を変え、地域の中で農業、商業、文化などを混然としたイベントが、各地で行われているのだと思います。

「城里町民まつり」も、七会地区の公民館まつりを皮切りに、3週間にわたってそれぞれの地域での文化活動や生産活動の展示、発表、即売等があり、町民の素晴らしい作品等に触れることができました。また、日頃稽古している芸能発表等もあり、まつりを盛り上げ、楽しませてくれました。

11日には、来年茨城県で開催される国民文化祭

の「川柳の一部」のプレ大会がコミュニティセンター城里で行われ、町内外から多数の関係者が参加されました。この広報紙の3頁にも入選句が掲載されていますが、来年の本番には、全国の川柳愛好者が本町を訪れますので、ぜひ成功させたいものです。

18日には猿島郡境町で、茨城県茶業振興共進会が開催され、来年度に城里町で開催を引き受けるため出席してきました。県内の茶業産地は、猿島茶、奥久慈茶、古内茶と言われていますが、このような共進会を契機として、町の特産品「古内茶」の名を広める良い機会でもあり、生産振興、品質向上につなげていければと思います。

今年のまつり期間中の行事のあれこれを取り上げてみました。

文芸しるさと

俳句

鶉高音自問自答を繰りかへし

飯田 勇一

工場なか曲って通り秋の風

山崎 正行

ゆつくりと散歩する道花菜風

飯村 愛子

炬燵出し母が小さくなりしかな

竹内 幸子

数へつつ登る石段杜鵑草

仲田 まちゑ

ななかまごまだ緑の葉付けしまま

森 静江

雲までも映す清流山紅葉

飯村 昭子

大甕に紫式部骨董屋

今 源 多代美

秋の川木の葉反りつつ流れけり

鯉 淵 寿美恵

白樺の幹つやつやと秋微雨

高橋 芦江

秋茜ゆつたり流れ写生会

いそべきよ

鴨来たる夕陽に向きて散歩せり

田所 厚子

源泉に吹き出す力紅葉山

源 谷 博子

露天風呂全身陽光小春かな

不況とは言えど慣わし止む無き
か歳暮売り場は熱気満ちたり
草引けば土の中より太りたる
越冬準備の夜どう虫ごころ
薄井 ひろ
微笑める遺影はさびし闘病の
長きを耐え来し友の逝きたり
不美
もて余す時間のあるも贅とし
て老後は短歌一筋に生く
片見 和枝
朝霧につつまる庭の「かりがね
草」を見つつ高原の旅情に浸る
川上 千代子
何処にて十五夜の月を賞でいむ
か師の病癒ゆるをひたすら祈る
島 愛子
秋明菊の白ほのぼのと供養碑
に添ふる夕べの庭の一隅
多田 志保子
シャツタを開めて閉店の店
あれば商人吾は心が痛む
坪井 きよ子
里帰りの夢の中にて母に会い
心とみて醒むる病室
萩 登喜子
稽古事年増す事に丸き背にな
れば笑顔作りて舞えり
和知 美智子
秋晴れの山王峠にもみぢ葉の
林は耀ふ明るきばかり
富田 佐智子

短歌

職退きし友とすぎゆき語らひ
て心充ちつつ聞く蟬時雨
所 美恵子

萩に咲く白い野荊棘は大いな
る晩夏の光集め輝く
青柳 京子
カラフルな帽子を吾娘が呉れたも
の派手と思いつつ勇んで出向く
山形 式妙
披露宴に息子より花束を受けに
つつ思い溢れて両の手に重し
渡辺 千紗子
冬瓜の流れよる種子一つ芽生え
江川辺に花咲き大きな実となる
秋山 愛子
薄氷の張りたる朝庭の辺を踏
みしめ見たり幼日還る
大森 久子
晩夏の花白き「ムクゲ」は朝
露を宿し綻ぶ涼しき秘めて
高堀 よしの
敬老会に姑を送りし日も遙か
今日はわが身が子に見送らる
佐川 あや
人は何故威張りたがるか不思
議なり嘘と差別で人を見下し
杉山 みちこ
台風に桐の太木も倒さるる蜜
蜂は蜜を残していづくへ
宮本 ふみ江
コスモスの花にたわむれ赤蜻
蛉風吹きくれば空に舞い行く
阿良山 ウメノ
湖空も真つ青の中紅葉の景色
写りしテレビに見入る
岩下 通子
笠間市に菊花展あり白黄色大
輪の菊社殿に匂う
鶴田 すか
筑波ねの峰より眺むる故郷は
八十路を越えて感ひとしおに
岩下 美知野
彼岸会は旧の八月十五日亡き
夫徳び満月仰ぐ
仲田 こう
空仰ぐ雨の明日や山紅葉浅黄
色なす菊香りおり
市川 義子

川柳

呆けでぬと掴んで物を探してる
青木 新三郎
きのこ採り話し半分四半分
一人旅その訛に逢た多蔵
夫婦して苦楽を共に50年
中島 芳春
プライドを捨て郷里の土になる
北野 武
山本 隆荘